

〈日本人〉の境界

小熊 英二著

日本の植民地支配が琉球処分から始まったことは、決して本書だけの主張ではない。ただ沖縄、アイヌ、台湾から朝鮮に至る植民地支配の政策を、さらに沖縄復帰に至るまでの日本政府の足跡を一貫して捉えようとしたところに本書の特徴があるといえよう。日本語強要、民族文化の徹底した破壊、皇民化教育などの同化政策が生み出されていく重要なファクターとして、欧米への敵対意識をあげる。その視点を軸に読み解くならば、日本政府がとつた同化主義は常に包摂と排除を抱え込んでいることがわかる。現代に至るまでの日本植民地政策通論として高く評価したい。

(新曜社、五八〇〇円)



萱沼 紀子